河田悠希さん（アーチェリー）
国民体育大会
応援レポート
2016年10月8日（土）岩手県　雫石総合運動場

成年男子の部でも“チーム広島“で優勝を狙う

10月7日（日）に行われた「成年男子の部」予選において、3人の合計得点がトップだった広島チームはファイナルラウンドに進出した。去年「少年男子の部」で2連覇を果たしていた河田さんは、今年も優勝して3連覇を成し遂げたいところだ。

8日からはトーナメント形式のファイナルラウンドが始まった。朝からの雨は本降り。しかしアーチェリーは荒天でも雷以外は実施する、アウトドアなスポーツなのだ。

国体では3人が2本ずつ放つ矢を1セットとして、勝ち点2ポイントが与えられる。先に5ポイント以上を取ったチームが勝ち。1回戦は岩手チームとの対戦だ。

矢を射るときは、傘も雨具もなし、この日の岩手県雫石は冬の気配さえ感じる寒さだった

いわて国体のマスコットは
わんこきょうだい

31 アーチェリー

洋弓で標的に矢を射て、
その合計得点を競う競技です。

- 3人の選手による団体戦で行われます。
- 予選ラウンド（個人戦）では1選手が70m先の的に4分以内で6射を12回、計72本の矢を射ます。（720点満点）
- ファイナルラウンド（団体戦・各都道府県3人1組）では、予選ラウンドでの3人の合計点の上位チーム（成年は8チーム、少年は16チーム）によるトーナメント方式で行います。

1回戦は快勝、準決勝で神奈川に敗退。翌日の3位決定戦へ

準決勝までは、刺さった矢を選手みずからが確かめにいく。ただ、矢を射る本人には放った瞬間にどこにささったかほぼわかるようで、真ん中（10点）に近いとその瞬間笑顔になる。

1回戦は6-0で広島チームの圧勝。ほっと一息つく。

そのあと他の試合をおいて、約2時間後に準決勝がスタートした。第1セットを相手の神奈川チームがとり、続けて第2セットも奪われてしまう。次のセットを取られると、そのまま敗退だ。チームにも緊張が走っているように見える。そして3セットめ、河田さんの笑顔も見えた！広島が2ポイントを穫った。が、4セットめで神奈川チームがポイントを重ね、広島は敗北。残念。 広島チームは翌日の勝利を誓い合っていた。

←納得の射的をして、仲間とハイタッチする河田さん

↙勝利のコールを受ける広島チーム（1回戦）

↓1セットごとに自チームと対戦チームと、それぞれの矢を確認

3位決定戦で勝利。2年連続入賞おめでとうございます！

翌日9日の3位決定戦は、雲りときどき晴れ。

広島チームはしっかり気持ちを入れ変えたようだ。地元の小学生の応援に笑顔をみせつつ、リラックスして東京チームに挑んでいた。

先に2ポイント穫ったあと、追いつかれる場面もあったが、広島がまさった結果となった。昨年に続き3位入賞だ。おめでとうございます！

↑試合途中、小学生応援団のかわいい応援に和む広島チーム

70m先の小さな円が見えている河田さん。高得点でチームに貢献　→

↑
3位決定戦と優勝決定戦は、一つの的を打ち合い、審判が矢を確認

←3位入賞おめでとうございます！
観客の声援に応える広島チーム

ぐっとたくましくなった印象の河田さん。大学に入り、体重を増やしているとのこと。

結果

10月7日　アーチェリー　成年男子個人

成年男子個人 成績

零石町総合運動公園陸上競技場
10月07日 10:25

順位	選手名	所属	記録
1	池田　亮	東京(早大)	650
2	菊地　栄樹	広島(エディオン)	650
3	岩田　歩	広島(エディオン)	648
4	尾崎　寛人	滋賀(滋賀建機)	645
5	前田　悠帆	福岡(グローリー)	643
6	河田　悠希	広島(日体大)	640
7	山本　雅也	滋賀(近大)	637
8	山田　啓睦	和歌山(近大)	635
9	田畑　隼剛	神奈川(東海大職)	635
10	窪田　晟也	東京(慶大)	635

10月8日　アーチェリー　成年男子団体

成年男子団体 決勝トーナメント1回戦

零石町総合運動公園陸上競技場
10月08日 10:20

広島	6	–	0	岩手
菊地				佐々木
岩田				滝野
河田				丹野

岩手は決勝トーナメント1回戦の成績により7位が確定

10月8日　アーチェリー　成年男子団体

成年男子団体 準決勝

零石町総合運動公園陸上競技場
10月08日 13:05

神奈川	6	–	2	広島
田畑				菊地
大井				岩田
大貫				河田

10月9日　アーチェリー　成年男子団体

成年男子団体 3位決定戦

零石町総合運動公園陸上競技場
10月09日 10:20

広島	6	–	2	東京
菊地				池田
岩田				窪田
河田				佐藤